

指導員(教育課)

渡邊 みき

7月27日、団員18人がそれぞれの期待と不安を持ちながら小野町を出発しました。

グレンロック町に到着した団員は、長旅の疲れも見せず歓迎会に参加し、積極的にホームステイの家族とコミュニケーションをとり、英語での会話に四苦八苦しながらも自ら話しかけ家族の中に溶け込んでいく姿も見られ、5日間のホームステイは短く感じたことと思います。

また後半のキャンプでは疲れを見せるどころか、モリモリ食事をとり、初めて挑戦する種目や苦手な種目にも積極的に挑みました。

大きなけがや病気も無く、団員のハツラツとした笑顔に安心した10日間でした。

今後はサマーキャンプでの体験を生かし、何事にも積極的に取り組んでほしいと思います。



ホストファミリーと(右から2番目)

団長(教育課長)

吉田 吉広

今年で24回目を迎える「サマーキャンプ中学生の翼」事業は、平成の初めに小野町で外国人英語指導助手をされていたクリスティン先生をはじめ、アメリカグレンロック町長、さらには賛同する皆さんのご尽力により、これまで続けていくことができました。

毎年ホームステイ先となるこのグレンロック町は、クリスティン先生の故郷であり人口約1万1千人と小野町とほぼ同様の人口規模で、ニューヨーク市内まで車で50分程の距離に位置する町であります。またグレンロック町から北西に3時間程の地にキャンプ場があります。

今年は中学2年生18人の団員と4人の引率者を合わせた22人のメンバーで、ホームステイやキャンプステイ研修を終えました。参加者全員が元気に多くの有形無形のおみやげを持って小野町

に帰れましたことは、引率者としてこの上ない喜びです。

「オリンピックで最も重要なことは、勝つことではなく参加することである。同様に、人生において最も重要なことは、勝つことではなく奮励努力することである。肝要なのは、勝利者になったということではなく健気に戦ったということである」という近代オリンピックの創立者クーベルタンのことばがありますが、団員が今回の研修で会得したものを糧に努力を重ね、さらなるステップアップが図れるよう期待しています。



グレンロック町長と(右)

指導員(小野中学校教諭)

遠藤 喬子

まずはじめに、第24回「サマーキャンプ中学生の翼」に指導員として同行させていただいたことに心から感謝します。

前半のホームステイでは、現地の方々の日常会話の速さに圧倒され、言語習得で最も大切なのは机に向かって学習することではなく、実際に使ってみることだと痛感しました。

後半のキャンプでは、その場に訪れているさまざまな国の子どもたちの英語力に圧倒され、私たち日本人の英語力、特に英会話力の

低さを身にしみて感じました。

今回、コミュニケーションは言語表現だけではないということをし、やっと自分の肌で感じる事ができました。英語教諭としての今後の課題が見えました。



ホストファミリーと(右)